

祝発足  
40年

# 宮城県心筋梗塞対策協議会

ごあいさつ

会長 下川 宏明



本協議会は、東北大学医学部第一内科教授であった瀧島任教授の発案により1979年に発足しました。当時の宮城県の急性心筋梗塞に対する救急医療体制は極めて不十分で、24時間体制で患者を受け入れる病院は一つもなかったといいます。

こうした現状に危機感を抱かれた瀧島先生が県下の病院に呼び掛けたところ、約20病院が参加。現在では、県下で急性心筋梗塞を扱うほぼ全ての病院に当たる43病院が参加しています。

過去30年でわが国の急性心筋梗塞患者は高齢化しています。特に女性は80歳以上の超高齢患者の占める割合が近年40%を超えています。さらに県内では人口密度の高い仙台市内(都市部)と、それ以外の地域(郡部)で比較したところ、ともに一般人口は高齢化し、それに伴って急性心筋梗塞の発症頻度も増加していました。

高齢化も要因の一つですが、ライフスタイルの欧米化の影響もあると考えられます。2000年に県内で行われた調査では、都市部に比べて郡部の男性が有意に多い動物性脂肪を摂取していて、郡部における食生活の西洋化は都市部以上に急速です。急性期死亡率は救急医療体制の整備と経皮的冠動脈形成術(PCI)の普及に伴って改善していますが、高血圧や脂質異常症、喫煙などの冠危険因子に対する予防意識の低さが懸念されます。

今後も、本協議会活動を継続することにより、宮城県における循環器医療の向上に努めていきたいと存じます。

〈事務局〉東北大学院循環器内科学 所在地 / 仙台市青葉区星陵町1-1 TEL022-717-7153

2018年(平成30年)10月30日(火)河北新報朝刊

※転載許可取得済み